めし

10

な T

<

り種で

ま

< 7

わいぞ

なにほ

れ

さま

< な

L

0

がき

\$

重

す

内拶

はが

段に

るびす

記費め並

てま

は

7

倍

長買娘

6

5 は

2 ,

ま

重

**** 蓬萊町会

第 四 号 昭和58年1月30日 発行者 編集者 文化部

頭 挨 拶

*

*

紫

*

紫

*

*

*

*

米

*

*

*

*

*

つ笑入皆音通でして深は年に * Z 菩 しあ 本 をは新 様 薩 りす L お福 年 \$ 0 音 は全ま 李 VC 迎 来 お 大てす る折 皆 3 す えた 観 BT ばるの角 切の 0 ま 音 6 2 な人喜 の蓬様 た Ł を子すの H 14 幸 5 5 びは 萊 VC はかす さを Ł W は 8 45 L 町 2 E らば 幸 救 7 かと ま は \$ す 5 C つなび す 地世 存 すて L しと蓬 名話 。いみの萊 V D K 重 1 。貫 とれ町 どだ 专心山 示なす清 じか心が会 うだ 6 0 4 全のに 寸 笑 ま昨し ぞくて響 VC 由 L 5 し年い 日誓ほ加 観見き来 5 FF は木いま十と頃し言る式 私十三 地

てな B 0 8 T の和ま で 合い 3 ~ 6 ね 0 道 7 づ < 5 N を な 5 お F. いが VC あ

來 田 0

好 杏 0 た

も得がるで米狭のたつがににの五月 紙難何所は近 呼日た `はあ家年十は < 本に根 < び本 0 私 つは 間 もは準け昭名医明が根 た東 蓬のの 権ず和が大治育 京 津 恭 大心 ん一現 ら十残がのつ裏 市町空つ H * 昔た門本本の あで面のれ一つ 襲 5 0 て年てま . 頃 坂 医 郷おで T た花草今広頃いだ済は一大区 世家 見が駐 < 1c た 日生っなの 駒 を 話 。本学医ん坂 今の坂時生車な 込 VC でのにえ場 つ神道医舎専ては 5 な F た社巾専かの 言 杢 2 0 桜な のはだら坂 たで つ今町 萊れだそのつそ側もつ出しては七 町はけれ大てれがった発とい正番 約年 てでい個み行のて庵 F

2 5

が張て

帰二たとは列家和で 8 戦姿呂大影 P 0 は注菓 校 後 りに医 かもを用菓 は配麦へを敷 \$ 文 子 を 5 大改專 町 b 暫 お並記のう作の 毎給の と見 をなの浅す を出 5 ら空 樂の ん憶定出っ器 制主拡か包自 を 日 藤嘉 る買たのの < 襲 つ来たを 制 百 と食大けび転村町位い才 お場川で の上る ° 持限人 なはさたつ車でののに援か所 てたず 越 私 和の 0 つ販分 今 つ固れ けの修松気行 6 みにの る組一みた 売 E たよた 日てハ業仙品 2 さ復 方 家 子の 0 9 の人た 李 しか 昭 1 中 堂がて子ん活に の角 恩か中おにい た二と `和戦每 李 15 たと 5 も供 は 疎 運 恩は 。百の砂十争 に菓十に 主 日ル 同か Ł だ 普 た 開 命 \mathbb{H} 二は子個 銘 朝人時糖六か用にいじがかっ 婦 0 を B 分や年ら足 親をと H がか分 いくえした おは て共 T . . 売かの店 5 2 `醬頃第 し木 たと私茶喜いに つ十お前自定一油に二に綿荷本。まはのば てし つとて五好に分め炉 なは次行の台郷旦つ、 水し た矢建

米大く風の日那てお学い戦

らかて東で幸 一う近まをらり 。はに卒旧三 昔都え制級 のバて 旦ス 温の 那の農高誠 に中林校之 似で省をの ておに経先 来見出て輩

見凧好えを江だでや実ん私称の八 らかて東せのを、裏戸つ、ん業にはで岸百それけ居大 のじか松前た上つ糸に凧たまのか訓、親田屋のたすらの開さ °にけ目五ののたやら育こし喜と西なるれ水成ん 、も本西だおる明をとま一乾隣あがた産中は ノろやと大受遊れさ物りと、 せお総も てま糸つ内うじとへけび 、ん屋の思最た科かよ 、け目け 。さはとたに一はを そにをる枚凧ん 、進と関寸一やき れ本十大半をがなま言ししきつし を格米きと揚なんれつてたいてだ 綺的もないけかでたては兄ちいし 麗な長凧うるなもがよ、貴ゃ にうくを、にか本、いき分ん 、貴ゃては 揚なしし大しの物き°いだしご戦 げりてつ張て通主い京ちつの当前 てを恰らりも人義ち北やた愛主は

客感さ門戦せのを 駄れと笹 鳴を年 つ立の 音襟 がをて て暮 立師てれ 力 て走 ラての北も コ家あ風な 路わにる 17 をた笹と ラ急だの ` コぐし葉軒 ロ買さが並

十思げけと `前及て子のこ 。たや場か 。大はら そ人絶お のが好正 数 `の月 は思風に 三い揚か

手た何る骨て一錦と混と雪め角壁御凧いる 一でが時し巻に、の絵れっのだ、いに健屋た商郁にい場て町 も出分ろい細こ谷風はて中るひ中幾在に、店文ものではに なの五てくれ、の一、張まょ張つだな大街館四瓜 つりもがつ工のの十を町郁い もかと十あ切だ宇武枚西り つと銭つつと治者六の凧そと凧凧、たの右門に競内文た ·銀てた一川絵十内でれこはを昔。棟手のもつの館 二貨 、和巻合、銭二、に、十並の高粱 枚一資紙骨戦例か枚他軍当銭べお岡高溝かん揚ど運の 半枚沢を一なえら半に艦りかて店さ岡口らだげも動頃 ののな斜とどば八の薫旗矢ら売はんさ理旧 、二つ、はん髪電 凧値もめ言が川十大凧な は打の つ描中銭風やど波十て下今は店車 なちだにてか島ももせのう銭いがも俄の通 れ合しあみ絵さ、た土近造手り かがつぐ なあたる凧で戦たつ凧柄ぎお。間くり前に 。てにが、か四ででのに出 0 (O W かつ

ば 銭 え軽 I K よ揚 かげ つよ たり 口充

にてっでたか糸易げものき真たはな銭た小売あ理 、虫でで岸行、たなもら程いてう絵わ中。なく凧凧さつち髪 。いの糸度の売駄がもに重く西しでなてゃ店 れ凧見とのたい根とだ巻ででつ菓主の日子、 洋と 三いんま き揚初て子でのの格近半言と角たので 。ち津途 や下中中をけ心い屋あ、丸子代紙つれの。駄行 んにで張持ら者たでつポのと印でたは紙横菓か や並切りちれ向。はたべあ言刷出 。一を長子な 私木れの出るき駒天。イるつで来と銭貼四屋い はとて凧しので凧井こと絵で大てのでつ角が反 そいしはてであはかのかや、量居駒買たのあ対 とうまっは、つ小ら風の、紫にり風えコ形っ側 に糸り六よ母たさ東はら赤色作、はたマのてに 糸屋とつく親。くで秋くののら手和のの上、前 をがとこ叱の糸て吊頃ろ竜格れ推紙で形と駒田 買あも糸ら針も揚りかな字子てきで一を下凧お いつあしれ箱縫げ下らどやのいでは一しにをは

がな京屋 このは 、 田つき は、らの西 旦今れ旦隣 那にな那り のないがが 身て玉た尾 地わが大張 名か二の屋 古っつ凧と 屋たあ好い のとるきう あと大。駄 ぶだき東餅

0 が気た なも狭屋 をるか路裏げいち 日と地の糸の 2 、不か路をに る尾思ら次た誰 で と屋にが消っ揚に凧 えてげ揚が の継と知旦つどていてが医 つ那たうし くいっ車 やま とるてのい坂 0 5 のい坂 糸だるの

を凧て揚凧持張作ののれ密 揚とはろと上凧 下のリ尾作をしがはち屋る先では兵そげん尾 下まっ、上さ。端あ凧器んたな張と風に る とろえて屋げんそにろの 6 人い父とののいすばい根るはの針う宇凧あのいの揚少持が 0 輸金 ° 宙 く越 時 るがさ下の仕に竿でしす竿にで旗ス揚 文大日凧んさ狭掛はをはのるを揚直竿テ げ な風と屋げ径を1 F な木げいが路でまるいにど根糸五二シと張議誰 か乗りよを糎本 = °っだりく程位ン つスて をの思 。はたテ知揚てろーぐ 1 らがすう尺し丸いで シんりい。位ていでもたが ・言 顔切すあ , E 輸 丑 ついぶに尾をそうこ秘 V

りと北木年ブ 子のさ清キ張 け二強ん君屋屋 があ子兄木横り 、揚がんいけ 揚だ下のてい次あたし げるの名 たを 李 お人ま だた私さ 2 , た とん うさたと同で 0 0 V

> るき まつ 風い 70 V 供と のれ 背は よ西 b / 高内 Va Du

れれく糸はめではる手れいをはと駈児い付第い凧い るて目なんあ、技もるう呉糸かけがのけー」揚し我だ半底 をいくる凧術と技意れをらだや三なにをげと々つのに ら。にをか術味る出たすっつい駈守のい蓬ただ焼 としぐとて 2 る達り萊 H ` 言て っといれ第出べ人と町 ともり糸ぼつげら次うへてはるで三さきたとのれつ、目をけて。第、こは決様あになだるが凧 じけとれ癖かが付て手一に糸の糸しにる他いと者言揚 1 わげ もにをと出し凧第の第れこれの てのて間 い場は筋にい三いで るよ 揚 0)てもに幼なを

0 第尾バ正 ラし凧つ凧尾身らを つに揚言 くのたは つがれつ、目をけて るればもし巧けいも歩風玉こをて さいく なたと 皆綺尾るだとい。ま動乗凧をしなを一糸二 大に麗っこりれと第でかせにだ 勢バにぼとすてい二取ずてあまたでけ のカ場ななるいうのり K げ さらならとばといめ

に尾たつては と揚げへぐ、 どがこれこな込もける玉っ手時くげぼ即「凡三 · 5 E ちなそな 知れら今だこのしにの他と握りか凧堂んい君っけ落でつる凧 らなし時でとこて涙に人んりすらの々なたはたてすあて者を るま姿とめの勿くあ結る風は揚 糸子わあいくの強順らぶとつは天んで論ゼげ果 を先げ こむを風がし 、たに空 3 < とお揚人て °辛と °くにっ程揚りく高ら強こで な互げのい いいくつ風のあ当るいて揚る と輩がま本しをい糸糸一位ぴての三る節のには糸の 先はい糸が遠後た一ばすて玉がカだた落日つ ので凧いとだ 2 ちな をき連 がけ同か うよ捨にらに切叮てす元なんでたとてどしとてあこなで噂糸いはつが糸。きし、 1 中他かなじ きし 分 ちは人らいコ *にを揚一てらを他まま他に やとのまと1後 して子糸ほげ本しがた人っつの体んの揚 ついスか つ知かまたて生供をぐてのまっぐのてて凧得や点糸て たらもたいかきのほすい糸りてつ凧いもがし木がを凧こ向揚しず知新。らる時ぐのる、。、たとる、みて下ま避をとかげ

いいの教がう行を、ががと う昔を供つるう の使なた に子えらこ先抱が一い凧てのげ 手供は がこいは実か日大本ついもにと所 しとてあこなで噂糸いはつが糸 にていてりう 2 25

ح 勉 变 強 VC P 職 F な 0 0 た 0 だ 7 0 見

C t とさ昭局 郁れ角 3 つ式の経 9 É かり H \leq 総 VC X 師 < で 宅 2 和 0 文 VC 5 VC V て、 た 5 拵 0 It 豊 館 5 だ 屋 雑 0 車 E 0 6 5 元、 庭 お 年 から き 長 休 中 誌 \blacksquare 場 0 5 L 0 な カギ ح T は L 生 見 唄 長 鯨 P VC 5 顯 0 T Ł (さニ+ 下 えて そ 畳 -60 新 まれ L 車 調 井 私 フ Vs 右 0 5 な より さん 1 だ I n 共 7 は 子 聞 办 VC \$ 0 木 を を VC を 0 カン 自 P 曲 け 師 揚 **=*** C 鍛治 V 7 大 奎 たの 私たの 2 整 から 出 乗 6 動 間 町 力多 0 右 ブ た。 た。 から 0 いた \subseteq き 호 屋 置 0 途 石 1) 車 克 内 世 n Z 3 5 か 中 本 など 長男 た _ 柱 h 7 0 た T È でよく Ł + V 0 ば n 6 + 凧 の上 電 凧 走 VC b 福 ح 突 から から 屋 5 2 を 0 S L た光 信 好 2 ^ 0 蓬 杏 80 Ŧī. 島 あ 3 V 0 * んな 組み さん 豊 たの 0 柱 2 遊 繁 萊 샠 0 た 0 VC 西 て、 で、 を 2 3 遊 6 VC HT た 景 田 弟 た P だ。 立 人 0 2 0 U VC から 結 C 手 2 郵 6 6 0 0 淹 造 7 罄 9 横印あ OX 7 5 お は 便 0 0

ま 真 寺 0 弟子 C 凧 揚 げ 0 名

> 来ぶ 文 凧 て、 1 館 7 VC から h 5 あ 0 5 0 私 3 門 な 7 た。 は 9 1 0 何 2 Ŀ を 北 とうな 時 < 付 風 P 3 け から 勉 Va T 吹 玄 0 < 強 0 0 で 寺 手 音 揚 0 かる げ から 境 聞 7 内 雷 とえて か Va カン 也 た。 ない 6 0 郁大

筆 者紹 介

順 信 氏

林

昭 昭 和二七 和 年年 東 東 学館に入社 京大学法学部卒業 本郷 生ま 辞典編 蓬萊 集部長 BJ 育ち

を小 車 最後に昨年退社 一辯文化 史

著

書

鉄 第 道唱歌」 四回交通図書賞受賞 和53年信濃路 発 行

昭和57年大正 出

版

発行

都

電

百景百話

(昭和55年信濃

路

発

行

2

昭和

57年

度

防災訓

練コンクー

N

護

州

0

都 電百景百話

続

筆 名 當 一延舎開 人ともいう。 右

槻

BI

活

動

0

昭 和 57 年 10 月から 昭和 58年1月(4カ月間

防

の折に おりますので、 は んできまし 副 て短時間 練があ 内の防災普及行事を企画して 昨 1. 昭 町内皆様に 车 和 57 は 10 ですが、 b 月 多 年 废 数をご参加をお願 本年は、 徹底してこそ役立つもの思って とのような防災に 町 秋 向 防災に 会では、 0 防 E. 地区総 火運 関する種 消防署の指導を得て、 各部 動 合防災訓 期間中に いいたしま おりますが、 部員 関する心構え k 0 が多 練 知識を学 左 加し 記 そ

11 月 14 日日午前八時三〇分~ 午前十一 時三〇分

内 場 容 文京区 報 連 絡·初期消火。 V 第六中学校 応急 救

H 時 11 月 23 日 (祭日)

4 前八時三〇分~午前十 時

島 ンクー 地区7 チー チー 8 加 文京区立第六中学 団体 4 4 . 駒込地区4チー 向 (町会及び自治 fi. 地区9チー 4

制限時間 応救救護、 プレーによって、 とのコンクールは、 (二分三〇秒) 怪我人の担架搬送までを的確かつ迅 火災発生の通報、 1 の間に、 チームを4人で編成し、 各人のチーム 初期消火、 の金額に達しましたので報告させて頂きます。

12月末現在の廃品回収による売却益金は、 いりました。ここで中間報告ですが、 昭和57年

速に行うことを競うものでした。 ムが参加し、 相応の成績を収めました。 当町会では2

記

売却益積立額 四四 七四八円

10月10日駒込警察 月10日~10月20日 とする金額まで達しましたら慈善金として、 的機関を通じて寄贈し、 なか、 この廃品売却による益金は、 恵まれない方々の 一応目標 一助 公

婦人の各部員が参加してまいりました。

署管内のパレードが行われ、

当町会では、

防犯、

の役に立たせて頂きます。

運動の普及行事として、

全国防犯運動10

防

婦

募金について

い募金と続いてありましたが、 から年末にかけて、 共同募金と歳末助け合 町内皆様方の温

今後共宣敷しくご協力方お願いいたします。 頂きましたので、ご報告と共に感謝申し上げます。 かいご厚志、ご協力を賜り、 左記の金円をお寄せ

金 = 九〇〇円

歳末助合い募金 三三七、 一一七円

廃品回 一収について

毎月の廃品回収日には、 本事業も輸が広がり大きく育ってま 皆様のご理解とご協力

文

左記にお名前を載せて頂きました。 町 会員のど家族で本年成人を迎えられた方は

00 誠にお目出度うございます。 当町会では、 祝品をお贈りいたしました。 新成人となられた方々に心ばか

記

根上浩嗣様 Ш 貴様 田頭美知子様 足立弘之様 佐藤宏樹様 小幡昌生様

一人様 力様 露久保尚樹 渡辺雅樹様 高橋智子様 宮城盛之様

前田 飛田

三宅 渋谷潤一 豊様 多田里美様 川田文枝様 稲村光弘 森近年登様

永田善裕様

藍原玲子様

藤井由香里様

豐 統様

左記

年

本年も町内を巡回し、 年末夜警 青年部では、 町会各部役員の協力を得まして、 12月18日から12 年末夜警を実施いたしま 月29日まで

皆様のど協力によるものと存じます。 故は一件も無く新年を迎えましたことは、 幸にして、 当町内では火災、 盗難等の不幸な事 町会

層努力してまいりますので、 今後も益々住み良い町内づくりに若者として一 皆様のど指導ど協

力をお願い申上げます。

担架一本・三角巾三〇枚の配布がありました。 12月10日に文京区役所防災課から当町会宛に総 務 部

計 報

間にご逝去された方々のご氏名は左記のとおり でございます。謹んで弔意を申し上げ、 当町会にお住いの方で、 10月から1月までの

をお祈りいたします。

倉 大塚正夫様 司様 梶谷亮兵 小笠原せい様 北島軍 治様

蓬萊歌壇

本郷弥生練瓦校舎に陽は照りて 銀杏秀つ枝の萌えかすむ町 吉田 すみ

枯真孤古利根河原に冬の陽の

霞みて遠し大江戸の空

瞬の関けさありて冬の海の 山崎 主雪

波葩は足元に舞ふ

学生がひとり驚鳥と遊びをり 三四郎他の春の日暮れを

秋落暉野ぼとけの笑み金色に 寿

あられ盛り川に押し出す流し雛 簿より消す旧友の名前やみぞれふる

> 秋蝶のふるまい淡き恋に似て ゆく年を惜しみて載てり縞つむぎ 生活の灯かかげて露地に春たちぬ

身に泌むや己れの裡にユダを見て 埋み火のごとき恋あり寒西 大貫 弘子

ただくことが出来ました。

ホロホロ苦き チョコレート

ンタイン

池田 あきら

惚の芽を土産に友の国なまり 初笑い邪気を払うや孫ひ孫 敷入りの昔語りや祖母床に

します。 採用の方には、町会より「記念品」を贈呈 ど投稿をお待ちします。

池 蓬萊町文化部 田 気付

向丘21

14 1 9

もと子

題して民俗文化研究家の林順信氏のご寄稿をい 心しておりますが、今回から「蓬萊町界限」と の皆様に楽しく読んでいただくために係一同苦 蓬萊町だよりも創刊満一年を迎えます。 編 集 部

また、前号でご案内しました「蓬萊歌・句壇」 を設けました。

ど了承下さい。 主たる行事についてのみ記載してありますので 的な事業活動並びに会議等は、省略させて頂き 「町会活動の概要」については、当期間の定例

ます。 寄せ下さいます様本年も冝敷しくお願いいたし 本町会の事業活動について、ど意見を、ぜひお

連絡先(八二三)一三六五 池田

なお、連絡は、文化部あてお寄せ下さい。

編集委員

高橋一郎 小林音吉 翁 竹中一馬 松夫 池田 猪熊良晃 暉

* 次回の発行は五月を予定しております。